

障がいのある人への 合理的配慮

ガイドブック



スポーツ、レクリエーション、文化活動の分野編



共通の配慮事項

P2



イベントの主催者

P3



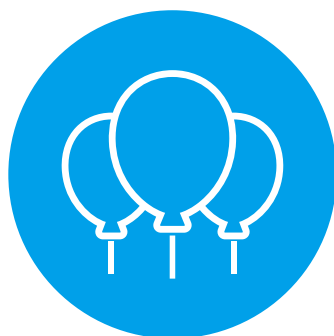
スポーツ施設

P4



文化施設

P6

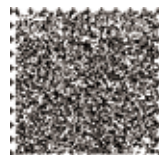


レクリエーション施設

P7

〈凡例〉

- | | | |
|----------------|--------------|-------------------|
| 視覚 視覚障がいのある人 | 肢体 肢体不自由のある人 | 精神 精神障がいのある人 |
| 聴覚 聴覚障がいのある人 | 内部 内部障がいのある人 | 難病 難病に起因する障がいのある人 |
| 音声 音声機能障がいのある人 | 知的 知的障がいのある人 | 発達 発達障がいのある人 |



はじめに

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」及び「福岡県障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する条例」により、全ての人に対し、障がいを理由とする不当な差別的取扱いが禁止され、また障がいのある人が直面する社会的障壁を除去するために必要かつ合理的な配慮が求められています。

県では、日常生活に深くかかわる事業分野ごとに特徴的な配慮事項をガイドブックとしてとりまとめました。各事業分野に共通するハード面やコミュニケーション等の対応についてまとめた「障がいのある人への合理的配慮ガイドブック(施設利用、情報提供、意思表示の受領編)」とあわせて従業員研修等に御活用ください。事業者の皆様は、障がいを理由とする差別を解消する取組が浸透していくよう願っています。



■障がいのある人への対応の基本

○ 望ましい対応

- 何が社会的障壁となっているのか、よく話を聞きましょう。
- 社会的障壁を除去するため、何ができるのか、よく話し合しましょう。
- 対応が困難な場合は、その理由を丁寧に説明しましょう。

× 望ましくない対応

- 何が社会的障壁となっているのか、相手の話を傾聴しない。
- 何ができるか十分検討せずに「対応できない」と結論付ける。
- 対応できない理由を説明しない。

留意事項

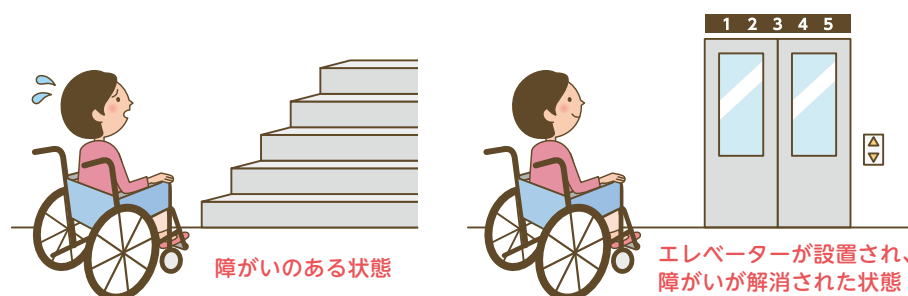
このガイドブックに掲載した内容は、あくまで一例です。障がいの状況は個人差^{※1}があり、その場の状況によっても対応は異なりますので、場面に応じて、必要な対応について、障がいのある当事者^{※2}と十分話し合ってください。

※1 特に発達障がいの場合は障がいの状況が多様であることに留意しましょう。

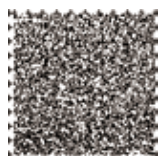
※2 本人の意思の確認が困難な場合は、本人の意思及び嗜好を推定しましょう。推定が困難な場合は本人の最善の利益を基に判断しましょう。

「障がい」の捉え方について

「障がい」は、個人の心身機能の障がいと、個人を取り巻く社会(モノ、環境、人的環境等)の障壁の相互作用によって作りだされているものです。この考え方を「障がいの社会モデル」といい、国連の「障害者の権利に関する条約」や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」等は、この考え方に立っています。



周囲の環境が変わることで、障がいを解消していくことが必要です。





1. 共通の配慮事項

受入環境を伝える

ホームページ等で障がいのある人の施設利用にかかわるハード面やソフト面の情報を発信しましょう。

(例) ハード面… ◎アクセス ◎駐車場 ◎段差

◎多目的トイレ(有無だけでなく、手すりの向きや背もたれの有無等、内部の情報も)

◎館内の動線 等

ソフト面… ◎混雑する時間帯 ◎スタッフが充実している時間帯 ◎どのようなサポートを受けられるか 等

視覚

ホームページは、音声読み上げソフトやマウス以外の操作機器の使用、モノクロ画面での使用等、様々な利用環境で正しく情報が伝わるように配慮しましょう。

肢体

◎詳しくは、次の資料を参照ください。

みんなが使えるホームページの作り方～ウェブアクセシビリティ12のポイント～(改訂版)平成18年9月独立行政法人情報通信研究機構

※ウェブアクセシビリティ規格「JIS X 8341-3:2016」制定前のもののため、当該JISの個別要件に必ずしも対応していません。



問い合わせや申し込みへの対応

聴覚

電話だけでなく、FAXや電子メール等でも問い合わせや利用申し込み等ができるようにしましょう。

音声

肢体



弱視の人が壁や柱の位置を把握しやすいように、床と異なる色にする

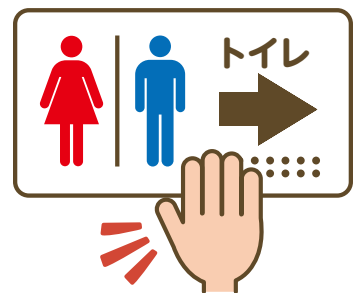
分かりやすい案内表示を

知的

施設の案内表示や掲示は、色や大きさ、分かりやすい

視覚

表現、ひらがな表示、絵表示等の配慮をしましょう。



観覧席等の利用について

肢体

車いす利用者から車いす用以外の席の利用が可能であり、そちらを利用したいとの申し出があれば、応じましょう。

電動車いす等の充電の可否について事前に説明しましょう。

視覚

お声掛けして席まで誘導しましょう。



行動を注意するとき

知的

施設利用ルールを逸脱しているとき、注意を受けても繰り返す場合があります。肯定的な表現で伝えましょう。「走らないで!」⇒「歩きます」など

発達

注意喚起の表示を絵やひらがな等で分かりやすくしましょう。

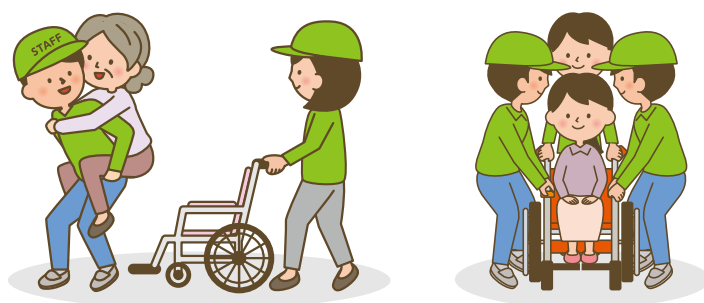


緊急時の対応

日頃から緊急時の誘導の準備(車いす利用者の搬送方法、視覚障がいや聴覚障がいのある人の誘導方法、聴覚障がいのある人への音声以外の伝達方法、人員体制など)をしておき、避難訓練は、障がいのある人の利用を想定して行いましょう。

避難経路のスロープ設置や点滅型誘導音装置付誘導灯の設置が望まれます。

下肢障がいのある人の緊急時の誘導方法の例



1人で搬送+1人が車いすを運搬

3人で車いすのまま搬送



2. イベントの主催者

チケット販売等

当日券販売や入場のため、炎天下で長時間の行列となるとき、難病等で体力的に困難な人のため、代理者を認める等の配慮をしましょう。

集合場所を変更します

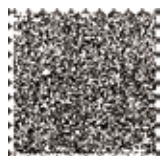


運営情報の提供

聴覚

集合場所の変更やスケジュールの変更など、運営上の重要な情報は、場内放送だけでなく、掲示等の伝達方法を検討しましょう。

運営スタッフは筆談で対応できるようにしましょう。





3. スポーツ施設

初めて利用するとき

障がいのある人が初めて施設を利用するときは、施設の利用方法などについて、オリエンテーションを行いましょう。

視覚

更衣室やトイレ等、利用動線に沿って誘導し、設備に触ってもらいましょう。

聴覚

館内に掲示している以外の詳細な情報を説明しましょう。

知的

施設の利用方法を、絵カードを用いる等により、分かりやすく説明しましょう。



更衣室の利用

肢体

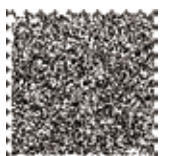
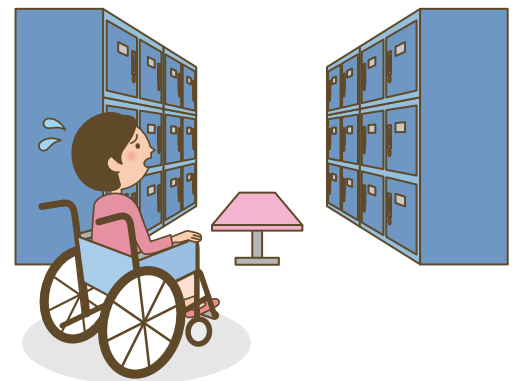
車いす利用者のため必要なスペースを確保しましょう。

立って着替えることが困難な人のため、椅子を常備しましょう。

介助者が異性である場合や更衣に広いスペースが必要な場合は、空いている部屋等を提供しましょう。

視覚

どのロッカーを使ったらよいか、案内しましょう。



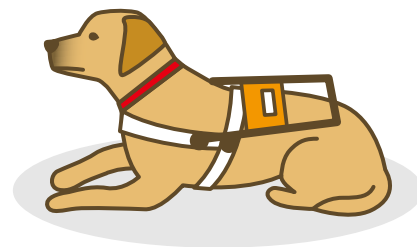
車いすスポーツの受入れ

スポーツ用車いすは体育館の床を傷つけないよう、工夫が進んでいます。どのような利用をするのか利用者と対話し、可能な範囲で受け入れましょう。



補助犬の待機場所について

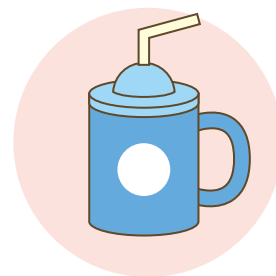
補助犬使用者がスポーツをしている間、補助犬をどうするか尋ねましょう。ボールが飛んでくる危険がなく、不特定多数の人が近寄らない場所で待機させることが考えられます。



マイコップの持ち込み

肢体

スポーツ観戦の有料観覧席等でマイコップの持ち込みを禁止し、飲料を販売している場合、提供しているコップでは中身をこぼしてしまう人については、持参の容器の利用を認めましょう。

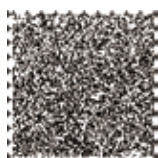


詳しくは **障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル**

平成28年2月 東京オリンピック・パラリンピック準備局
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル

検索





4.文化施設

展示物の鑑賞



博物館や美術館では、可能な範囲で、展示物を触って観察鑑賞できるようにしたり、学芸員が説明したりしましょう。



講演等



講演などでは、スクリーンに要約筆記を表示するか、手話通訳者を配置しましょう。手話通訳者は、客席から見えやすい位置に配置し、スポットライトで立ち位置を明るくしましょう。

※要約筆記者は社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会(電話:092-582-2414)で、手話通訳者は福岡県手話の会連合会(電話:092-584-3649)で、紹介を受けることができます。(有料です)



劇場、ホール、講座室等に磁気誘導ループ(ヒアリングループ)を設置することが望まれます。

※磁気誘導ループ
補聴器や人工内耳は周囲の雑音も大きくしてしまいます。磁気誘導ループは、必要な音だけクリアに補聴器や人工内耳に伝えることができます。



ヒアリングループマーク

補聴器や人工内耳に内蔵されている磁気誘導コイルを使って利用できる施設・機器であることを表すマーク



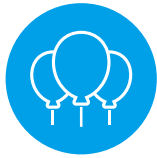
映画館や劇場で補助犬を受け入れるときの配慮

上映(上演)時間が長い場合は、はじめに補助犬の排泄場所を案内しましょう。排泄場所は多目的トイレ等が考えられます。ペットシートを敷き、その上で排泄を済ませたり、特別なベルトを利用してビニール袋の中へ排泄させる等、補助犬使用者が責任を持って片付けます。

退場時、混雑するので最初か最後に案内しましょう。

犬アレルギーや犬が苦手な客がいる場合は、双方が了解した上で互いに離れた席になるよう調整しましょう。





5.レクリエーション施設

障がい者を理由とした利用の拒否や制約について

アトラクション施設等における、障がい者を理由とした利用拒否や付き添い等の条件付与について、不当な差別的取り扱いになっていないか、改めて検討してください。やむを得ず制約を設けざるを得ない場合、受け入れ拡大のため、安全対策強化等の環境整備を検討しましょう。



補助犬利用者への配慮

補助犬を同伴できない乗り物、着ぐるみのいる場所、暗闇、ライト、音響、花火、揺れ、振動など、補助犬にとって刺激となるアトラクションなどの情報、補助犬の排泄場所や障がい者対応トイレの場所などの情報を事前に伝えてください。



■参考文献

- 障害者差別解消法【合理的配慮の提供等事例集】平成29年11月内閣府
- 障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル
(平成28年2月 東京オリンピック・パラリンピック準備局、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会)
- 補助犬受け入れマニュアル〈事業者編〉補助犬同伴のお客様への対応
(平成15年12月 特定非営利活動法人日本介助犬アカデミー)

■ガイドブックの入手先

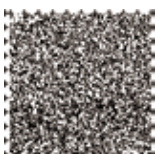
このガイドブックは、県ホームページでも公開しています。事業所内での研修等で使用される際は、ご自由にお使いください。

障がい者差別解消専門相談(福岡県庁2階 障がい福祉課内)

県では、障がい者を理由とする差別や合理的配慮の提供に関する相談を受け付けます。お気軽にご相談ください。

電話:092-643-3143(月～金:9時～17時 ※県の閉庁日を除く)

ファクス:092-643-3304



福岡県行政資料	
分類記号 HD	所属コード 4600419
登録年度 令和1	登録番号 0004

発行：福岡県福祉労働部障がい福祉課

令和元年 5月